

参加者紹介

昭和花き研究会 菅家博昭さん

花き業界の白い忍者！

今回は、菅家さんからのレポートです。



2007年7月2日、東京都大田市場花き部の仲卸・中央花きの店頭で草月流の華道家・前野博紀さんが来られ、はじめてこのときにお会いし、いくつかお話をしました。福井県出身で昨年独立して仕事を始められ、染め色かすみ草を使っていきたい、ということでした。すぐに品種別に染め色風合いが異なることなど、見本を見ての発注計画をお願いしました。



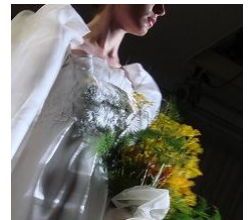
7月から8月、いくつかの仕事に使うかすみ草の染め色計画(18色あり通常9色使っています)にそって納品をしました。

1500本の染め色かすみ草を納品し8月28日から神宮前5丁目の青山プロモ・アルテギャラリーで前野さんは個展を開催し、そのレセプションパーティにMPSジャパンの松島社長をはじめJFMAのメンバーにも来ていただき、前野さんと会っていただきました。



9月3日は、ふくい南青山291という福井県の物産館の2階で、ブライダルショーが開かれ、花は前野さん、大分県出身のファッションデザイナー森永幸徳さん、宝飾作家の金澤郁乃さんによる25組のドレス、ブーケなどすばらしいものでした。森永さんも独立してはじめてのショーということで郷里からお母さん、お兄さんが会場に参席されていました。会場装飾には、また1500本の染め色かすみ草を使用されました。

印象に残ったのは、野草や秋の七草の黄色のオミナエシを使ったブーケ、かすみ草のブーケもたくさん提案されました。その花や葉の組み合わせは、これまでの概念にしばられない、ういういしいものでした。



かすみ草・オミナエシのブーケ

2007年からMPSが日本でスタートしました。前年の11月に登録申込みがはじまり、こうした新しい制度の認証(ラベル)には、我が国の伝統的な生け花が当初から使っていた野の花、あるいはそうした化学的物質を制限した植物生産にはいちばんに向くスタイルのものがMPSフラワーだと確信しています。



教室で技法と精神を伝授する生け花のスタイルは、新しいMPSラベルといちばん仲良くなれるものです。MPSフラワーは量販店で消費者に訴えかけるものとしてオランダの制度設計を学んできましたが、こうした日本でのMPSの幕開けの年、かすみ草を思いもかけずに華道家・前野さんに使っていただき、新しい伝統がはじまる予感を受けました。



昭和花き研究会では2006年に福島県知事からエコファーマー認定を受け、現在、会長の私1名(※2008年3月からは新たに5名参加)がMPS参加しています。かすみ草、セダム、オミナエシなどを露地を中心として夏秋出荷で栽培していますが、露地の伝統草花こそMPSラベルが似合うと感じています。